



DATA

■お問い合わせ先
JAうご 営農販売課
TEL.0183-62-5824
http://www.ja-ugo.jp

JAうご ストック

水上げしない出荷基準が この産地のルール

水を切って出荷しているJAうごのストック。花屋さんで水上げの後、花持ちの良さが断然違います!

◎水上げとは
しおれた切花の茎から水を吸わせることで花を元気にすること。焼く、たたくなどのさまざまな方法がありますが、「水切り」という水圧を利用した方法が最も一般的です。

■水切りのしかた

切り口より空気が入ると水を吸い上げにくくなるので、水中で行います。



■水上げ前

1か月の間、水を絶って収穫されたストック。



■水上げ後

水を吸収し、見違えるほどみずみずしくなったストック。



羽後町の「ストック」はとっても品質が良いとのことですが、その産地の様子を見たことがあります。是非、詳しく教えてください!



ナビゲーター
JAうご 営農販売課
販売担当 主任
佐藤 重信さん
(JAうご公式ブロガー)



ストックを導入しただけは?

35年ほど前、当時の園芸組合の7名が「冬に花をつけて寒さに強い」というストックの特性に着目。ハウスで栽培したのが始まりです。JAうご管内の気候はストック栽培にも適していて、適地適作の花きとして認識されるようになりました。おそろく本州で最も出荷が早い産地です。嬉しいことに、県の種苗交換会で農林水産大臣賞を受賞する生産者も多く、栽培を始めた頃に勉強に行ったストックの本場千葉県産地から、逆に研修に来たいとお話を頂いたりしています。質の高いストックの産地として、全国的にも認知され安定した高評価をいただいております。

ストックの栽培でポイントとなることは何ですか。

ストックはハウス栽培なので、環境面の管理がとても重要です。連作障害が出やすいため、ウイルスなどに侵されないよう土壌の消毒作業を毎年行なっています。また、ストックの花には一重と八重がありますが、部会では八重のみ出荷すると決めています。そのため、育苗の段階で一重のものを見極めて間引く八重鑑別をしても難しい技術ですが、この技術こそ宝であり、市場から期待される要因であると自負しています。栽培管理や圃場管理は気が抜けません。

今年の出荷は順調ですか。

現在、29名の部会員が約6000坪の圃場で10品種ほどを栽培しています。他の産地と違い、収穫の1ヵ月前から水を断って育成し出荷します。花屋さんが店頭に並べる前に水上げをすることで、花持ちが特段に良くなります。今年も10月上旬に初出荷しました。品質的に重要な草丈や、収穫量も良く、滑り出しは好調です。来年3月頃まで、東京や千葉、仙台などの市場へ出荷できる見込みです。また、「地元で評価されなければ他で売れる訳がない」という部会の方針を反映し、秋田県内の市場へも精力的に出荷しています。県内で流通しているストックの約9割がJAうご産のものなのです。50本1ケースで出荷しますが、その全てを経験豊かな部会員で構成されている検査員がチェック。場合によっては等級の格下げや持ち帰りになるなど、厳しい目で確かな審査を行なっています。

これからの目標を教えてください。

若い世代への勉強会を毎月開催して、生産者の育成に力を入れています。また最近、近年実施していなかった「立毛品評会」を復活しました。これは市場から販売担当者を招き、収穫前の農産物の状態を、ハウスの全体の状態も含めて審査するものです。産地と市場の連携を深めながら、PRに取り組んでいます。今後も全国に誇れる高い品質の維持に努めていきたいですね。

●全国に誇れるストックなんです! 品質へのこだわりを随所に感じました。



1 「栽培品種には各年の流行も意識しています」と満面の笑みで話すJAうご花き園芸部会ストック部長の佐藤隆敏さん(写真右)と副部長の仙道忠秋さん。2 JAうご花き園芸部会ストック部。3 ストックの収穫作業。12月が出荷のピーク。4 昨年の立毛品評会の様子。ハウスの管理状況なども含め総合的に審査される。5 熟練の検査員の目が品質を最終チェック。6 ピンクが美しい「朝波」。八重のストックはとて豪華。

